

生物多様性の取組に関するアンケート調査【府民向け】

調査概要

調査期間 2026年1月13日から2月23日まで

調査対象 大阪府民並びに大阪府域で生物多様性に関する取組をされている方

調査方法 ウェブ上の回答フォーム（大阪府行政オンラインシステム）

質問内容

- 問1 地域戦略に掲げる2030年の将来像への進捗状況
- 問2 回答者の取組内容
- 問3 回答者の取組を行う上での課題
- 問4 回答者が思う2050年の大阪の将来像
- 問5 大阪府に求める取組
- 問6 回答者が今後取組むこと
- 問7 自由記述

調査結果

1. 回答者の内訳

有効回答数 111件

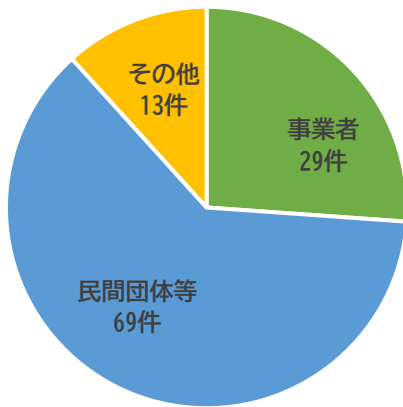


図 1-1 回答者内訳（所属別）

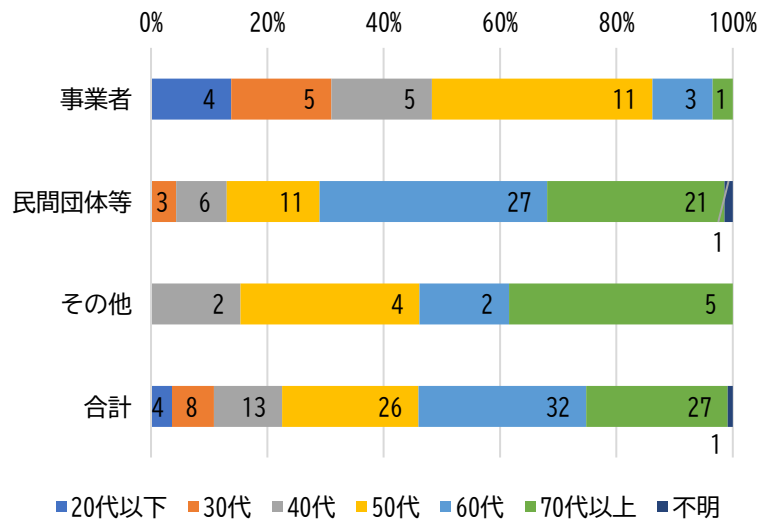


図 1-2 回答者内訳（年齢別）

※民間団体等とは、自然環境保全に関する NPO 法人やボランティア活動をする任意団体のこと

## 2. 地域戦略に掲げる 2030 年の将来像への進捗状況

有効回答数 111 件

### 地域戦略に掲げる 2030 年の将来像

- (1) 生物多様性の保全や自然資本の持続可能な利用の機運が醸成され、多様な主体が連携し、府域の自然環境の保全及び回復活動が進んでいる。
- (2) 府民、事業者、民間団体などあらゆる主体が生物多様性の重要性を理解し、日常生活の中でも自然環境に配慮した行動をしている。
- (3) 希少な野生生物について生息状況のモニタリングが進むとともに、関係者が連携して特定外来生物の防除対策が進んでいる。

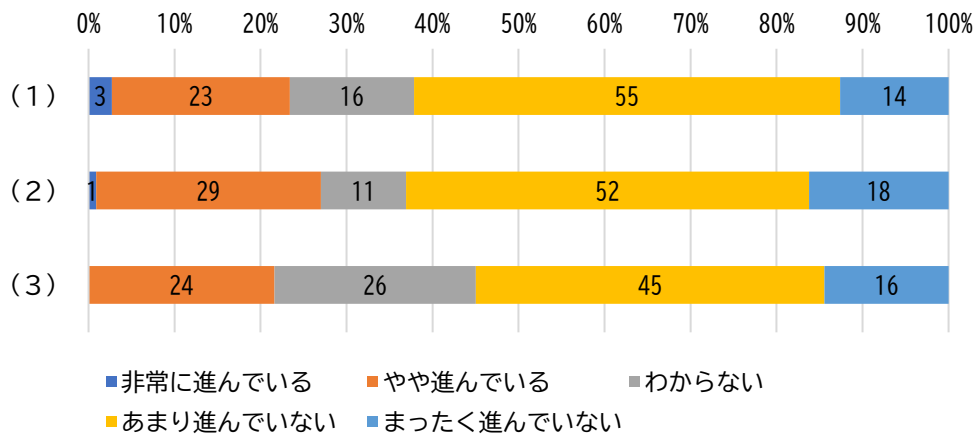


図 2-1 (1) ~ (3) の進捗状況

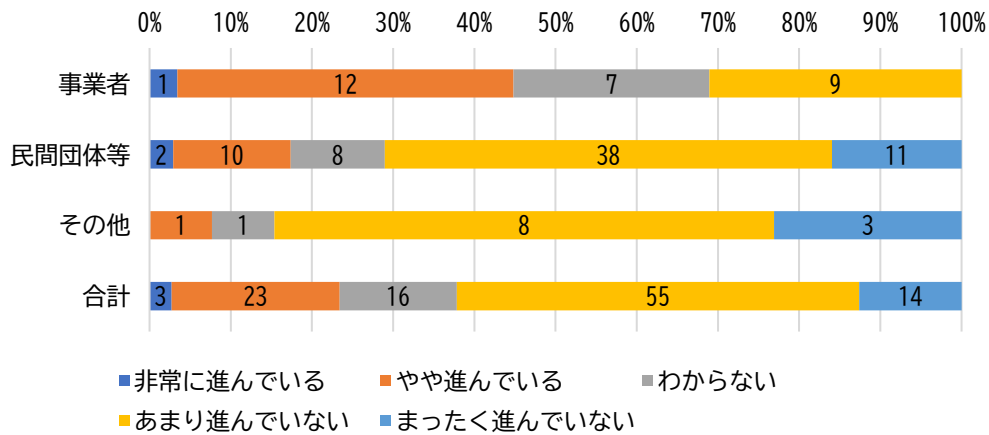


図 2-2 (1) の進捗状況

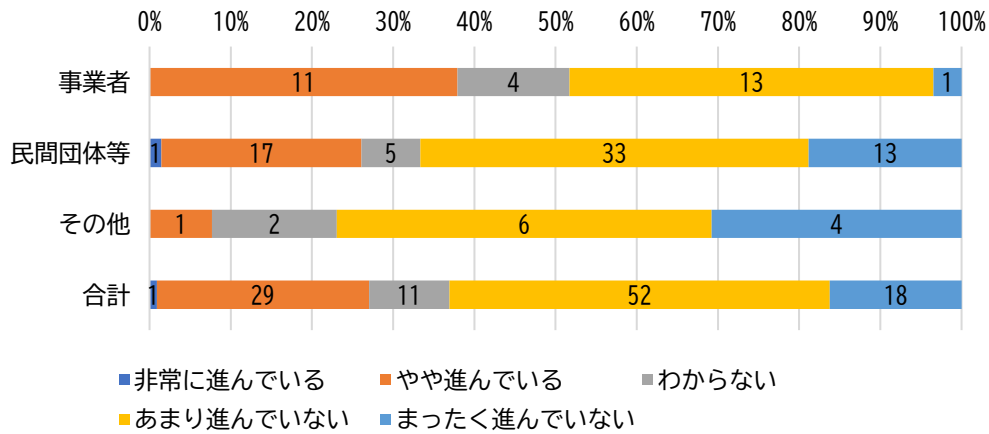


図 2-3 (2) の進捗状況

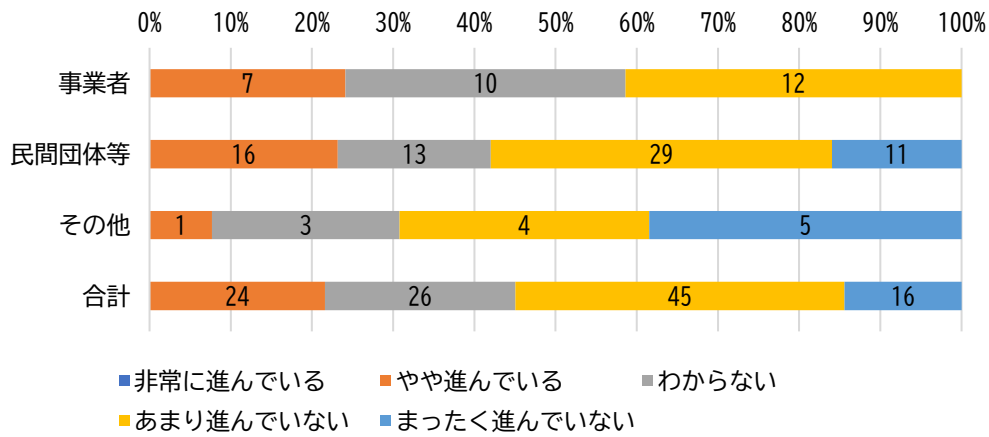


図 2-4 (3) の進捗状況

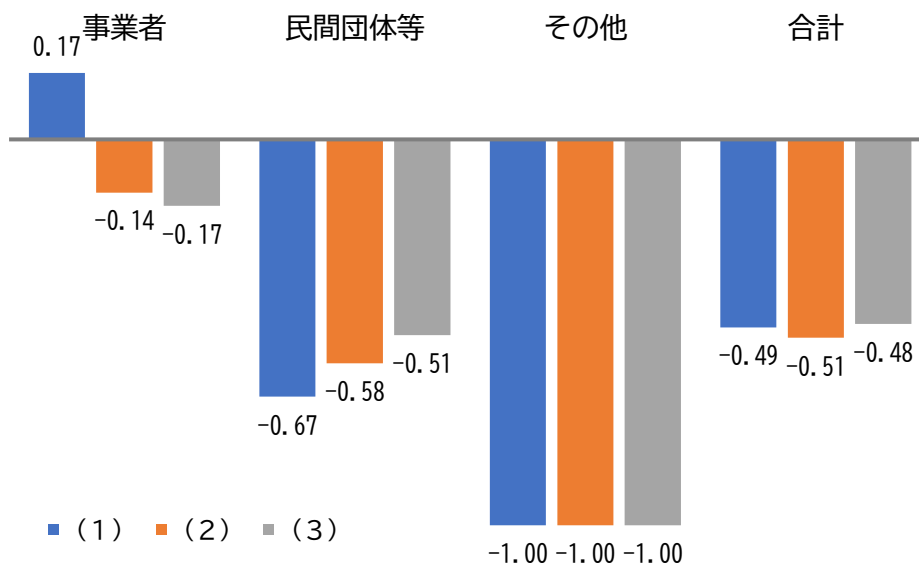


図 2-5 進捗状況の平均スコア

回答を「非常に進んでいる」=2、「やや進んでいる」=1、「わからない」=0、「あまり進んでいない」=-1、「まったく進んでいない」=-2 とし、平均スコアを算出。

### 3. 取組を行う上での課題

有効回答数 111 件

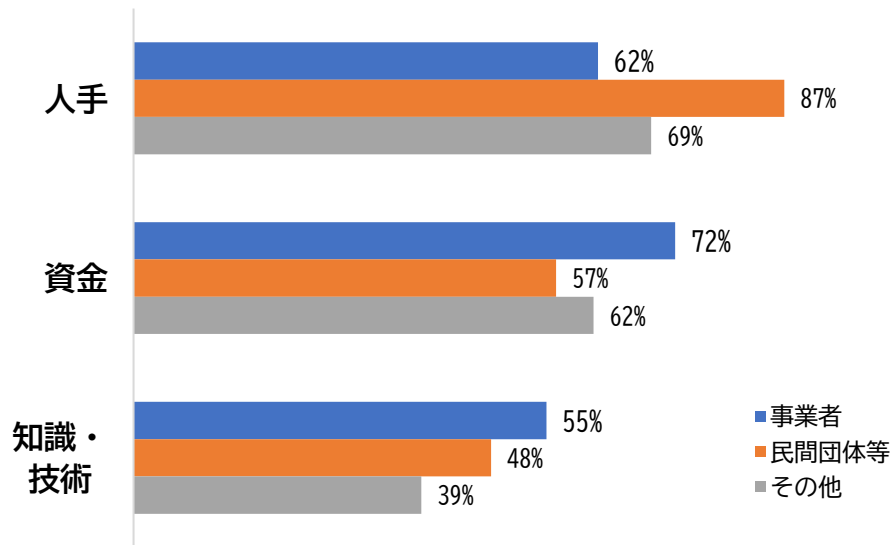


図 3-1 取組を行う上での課題

また、その他の課題では、18 件の回答があり、そのうち 13 件で**社会や行政担当者の認識・理解の不足**が挙げられた。

### 4. 2050 年の大阪の将来像

有効回答数 100 件（事業者 23 件、民間団体等 63 件、その他 13 件）

自由記述の内容を以下の 5 つに分類し、さらに 12 に細分類。

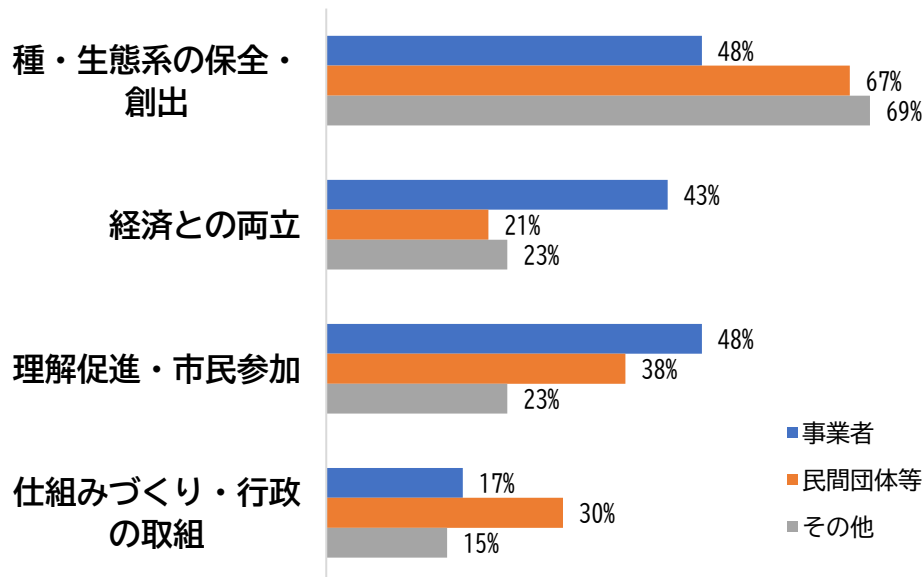


図 4-1 2050 年の大阪の将来像（大分類）（割合）

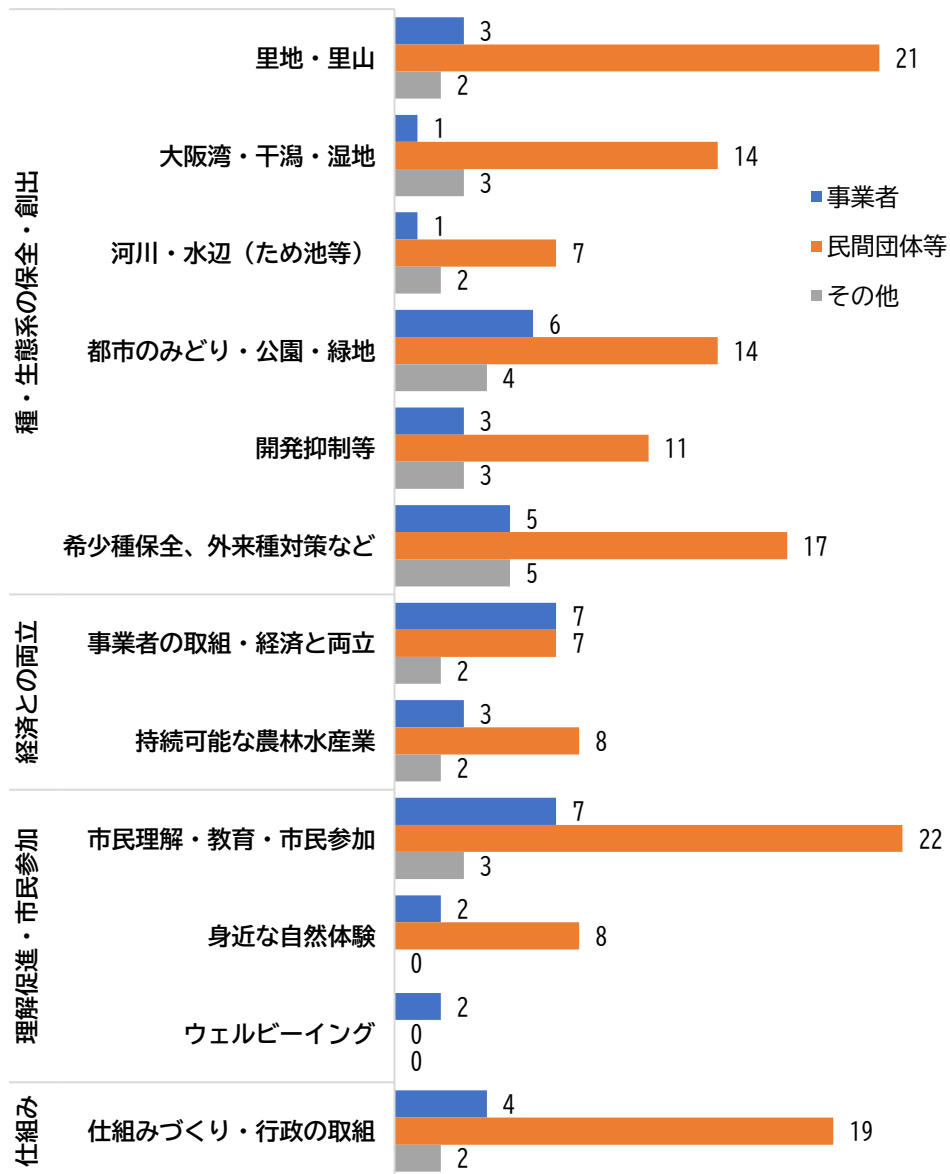


図 4-2 2050 年の大阪の将来像（小分類）（件数）

## 5. 大阪府に求める取組

有効回答数 111 件

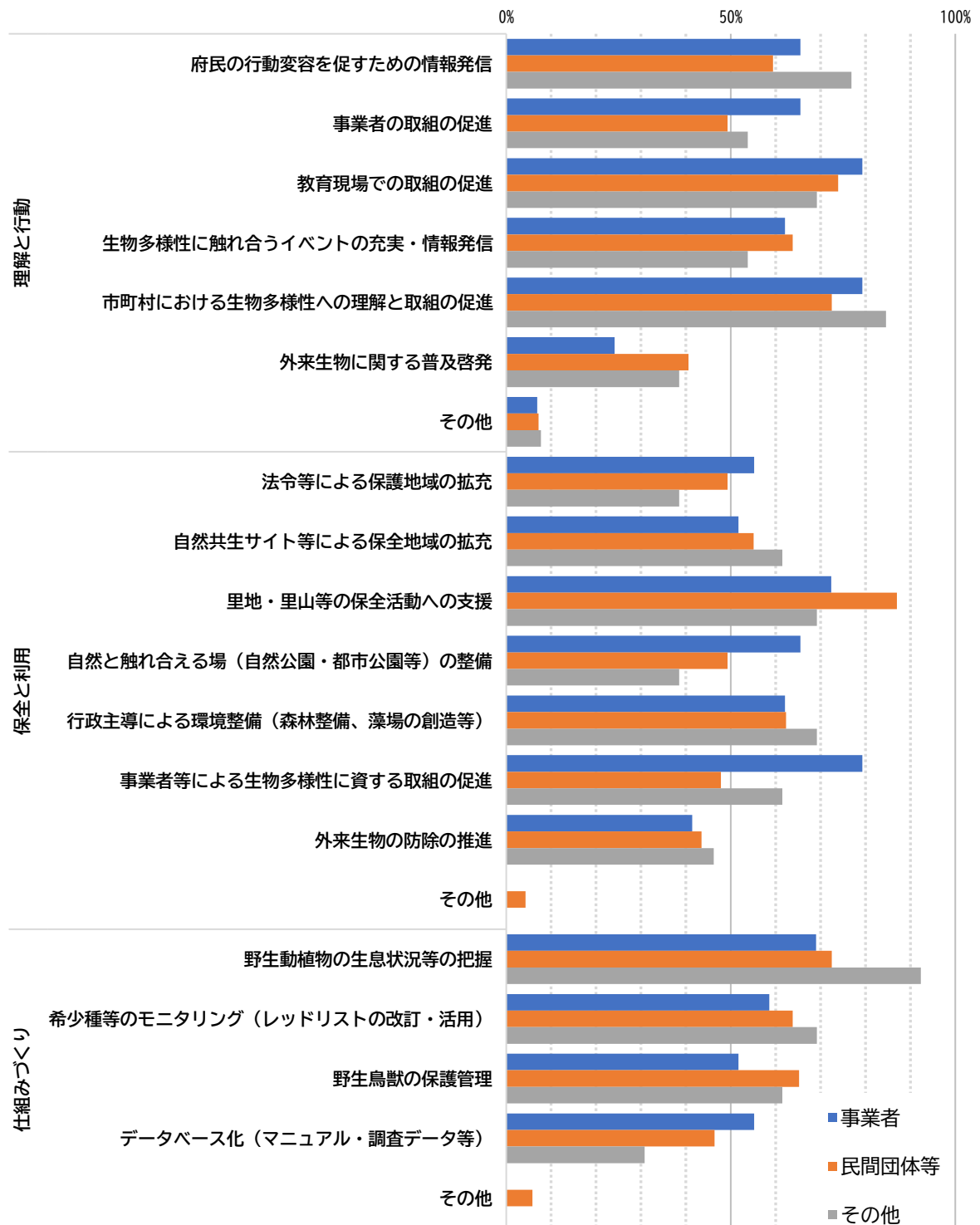


図 5-1 大阪府に求める取組

表 5-1 大阪府に求める取組（上位 5 項目）

事業者

1位	教育現場での取組の促進	23件	(79.3%)
	市町村における生物多様性への理解と取組の促進	23件	(79.3%)
	事業者等による生物多様性に資する取組の促進	23件	(79.3%)
4位	里地・里山等の保全活動への支援	21件	(72.4%)
5位	野生動植物の生息状況等の把握	20件	(69.0%)

民間団体等

1位	里地・里山等の保全活動への支援	60件	(87.0%)
2位	教育現場での取組の促進	51件	(73.9%)
3位	市町村における生物多様性への理解と取組の促進	50件	(72.5%)
	野生動植物の生息状況等の把握	50件	(72.5%)
5位	野生鳥獣の保護管理	45件	(72.5%)

全体

1位	里地・里山等の保全活動への支援	90件	(81.1%)
2位	市町村における生物多様性への理解と取組の促進	84件	(75.7%)
3位	教育現場での取組の促進	83件	(74.8%)
4位	野生動植物の生息状況等の把握	82件	(73.9%)
5位	希少種等のモニタリング（レッドリストの改訂・活用）	70件	(63.1%)

なお、その他では行政の認識や取組・体制の強化を求めるものが多くみられたほか、市民科学の導入や事業者への規制やインセンティブの強化などの新たな制度の導入を求めるものが見られた。

## 6. その他（自由記述）

有効回答数 64 件（事業者 14 件、民間団体等 43 件、その他 7 件）

自由記述の内容を 14 に分類

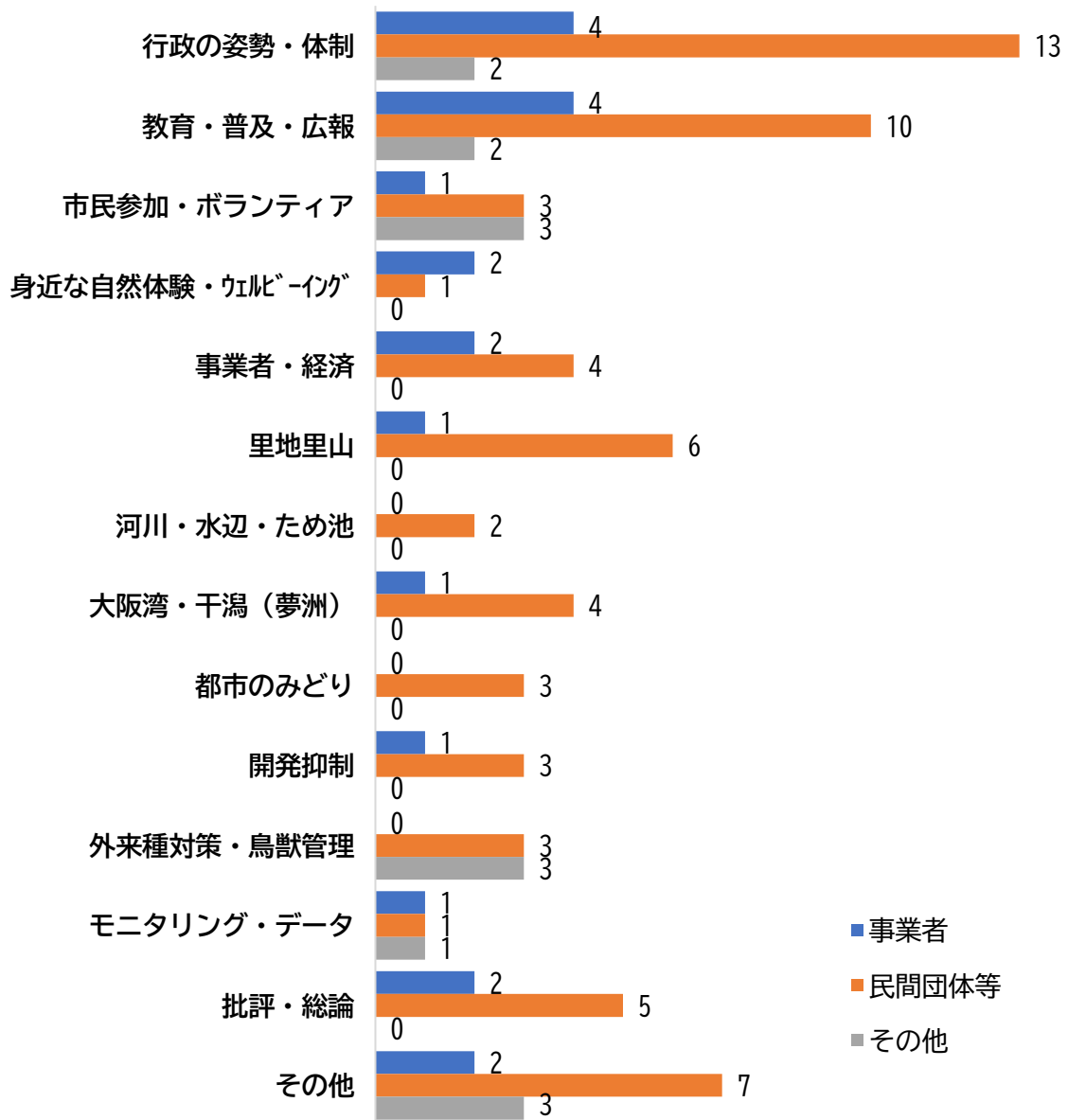


図 6-1 その他の意見の内訳

## (調査票)

### 【府民向け】大阪府生物多様性地域戦略に関するアンケート調査

問1 大阪府生物多様性地域戦略では2050年のめざすべき将来像として「大阪から世界へ、現在から未来へ 府民がつくる暮らしやすい持続可能な社会」を掲げ、2030年までに下記の(1)～(3)の状態をめざすこととしています。

(1)～(3)の進捗状況について、2020年頃と比べて、あなたはどのように感じていますか。

(1)生物多様性の保全や自然資本の持続可能な利用の機運が醸成され、多様な主体が連携し、府域の自然環境の保全及び回復活動が進んでいる。

- 非常に進んでいる     やや進んでいる     わからない  
 あまり進んでいない     まったく進んでいない

(2)府民、事業者、民間団体などあらゆる主体が生物多様性の重要性を理解し、日常生活の中でも自然環境に配慮した行動をしている。

- 非常に進んでいる     やや進んでいる     わからない  
 あまり進んでいない     まったく進んでいない

(3)希少な野生生物について生息状況のモニタリングが進むとともに、関係者が連携して特定外来生物の防除対策が進んでいる。

- 非常に進んでいる     やや進んでいる     わからない  
 あまり進んでいない     まったく進んでいない

問2 あなたは生物多様性に関してどのような取組みを行っていますか。

( )

問3 あなたが生物多様性に関する取組みを行う上での、課題を教えてください。〔複数回答可〕

- 人手不足・高齢化・活動メンバーの固定  
 資金不足  
 知識・技術不足  
 その他 ( )

問4 あなたは、生物多様性に関して、2050年の大阪はどのようになってほしいですか。

( )

問5 問4でお答えいただいた2050年の大阪の姿に向けて、大阪府にどのような取組みを求めますか。特に重要と思うものを選択してください。

〔複数選択可〕

【生物多様性の理解と行動の促進】

- 府民の行動変容を促すための情報発信  
 事業者の取組の促進  
 教育現場での取組の促進

